

農村地域の住民による共生型地域環境づくり その1

- 四日市宮妻集落の女性の地域環境意識 -

○瀬沼 頼子* 糸長 浩司**

(*昭和女大短大 **日大)

【目的】都市近郊型の農村地域である宮妻では、近年、住民参画による環境保全や都市住民とのふれあいを考えた地域づくりを推進する目的から、活動の母体となる会を組織し、地域住民の将来像を描いたマップづくりを行ったところである。「地域づくり」の第一歩を踏み出したばかりで、今後の地域環境整備に向けてさらに住民の意識を高め、住民主体で行うことが必要となっている。とりわけ、女性の力を活かした地域活動が、共生時代のまちづくりの視点からも重要と考え、女性の地域環境意識を本研究の目的とし調査を行った。

【方法】四日市市宮妻集落の全59戸の成人女性を対象に、女性の地域への関わり方や環境整備のあり方等を内容とするアンケート調査を実施した。調査票は1996年11月初めに配布し、1週間の留置期間を経て回収を行った。対象者は62名、有効回答は59であった。

【結果】回答者の年代は20～80歳代にわたり、うち50歳代が最も多く、約半数の世帯が拡大家族である。専業農家は7世帯、回答者の8割余りが有職者である。今後の環境整備については、「住民主体で整備計画」は16.9%、「住民と行政の協力による整備」は45.8%である。生活環境整備の方法の上位3位（複数回答）は、1.「体験型農園・自然公園整備」（33.3%）、2.「蛍を再び呼び戻すような河川の整備を子供と行う」（31.5%）、3.「他の地域女性との交流を通じて情報を入手活用していく」（29.6%）の順である。また、共生時代の地域づくりの方向として（複数回答）、「次世代を考えた地域づくり」（64.5%）、「地域の特性を活かした魅力ある地域づくり」（56.9%）の回答が高い割合を占めている。